

都市再生整備計画 事後評価シート
我孫子駅南東地区

平成26年3月

千葉県我孫子市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	千葉県		市町村名	我孫子市		地区名	我孫子駅南東地区			面積	141 ha		
交付期間	平成21年度～平成25年度		事後評価実施時期	平成25年11月		交付対象事業費	686百万円	国費率	40%				
1)事業の実施状況	事業名												
	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	道路 散策路の整備、公園・明田緑地の整備、公園・(仮)天神山緑地の整備、公園・寿古墳公園の整備、子ノ神緑地の整備、サインの整備、我孫子駅前インフォメーションセンターの整備										
		提案事業	杉村楚人冠邸の保存と活用(建物)、旧村川別荘の再整備・活用、湧水スポットの整備、志賀直哉邸跡の再整備と活用(史跡)、史跡文化財案内冊子の作成										
	当初計画から削除した事業	基幹事業	事業名	削除/追加の理由	削除/追加による目標、指標、数値目標への影響								
		提案事業	我孫子駅自由通路の整備 旧村川別荘ポケットパークの整備	社会情勢の変化により、JR東日本との自由通路整備の調整がつかないため。 地域創造支援事業(旧村川別荘の再整備・活用)と一体的に整備しているため、事業を統合し、地域生活基盤施設事業を削除した。	当初の計画通りに我孫子駅自由通路を整備していれば、「指標1:インフォメーションセンター利用者数」や「指標2:文化ポイントへの来訪者数」の増加に寄与した可能性はあるが、いずれの指標についても、当初掲げた目標値を達成する見込みである。旧村川別荘ポケットパークの整備については、影響はない。								
		新たに追加した事業	基幹事業										
交付期間の変更	当初変更	平成21年度～25年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響										
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
	指標1	インフォメーションセンター利用者数	人/年	8,451	H19	11,000	H25	モニタリング	31,732	○	あり ● なし	常磐線、成田線沿線の駅や自治体への積極的なPRが利用者増につながった。	平成26年5月
	指標2	文化ポイントへの来訪者数	人/年	11,400	H19	16,500	H25		14,513	△	あり ● なし	明田緑地の取得・整備、杉村楚人冠邸の整備・活用、旧村川別荘の再整備、志賀直哉邸跡の再整備などが奏功し、ソフト展開と合わせた魅力向上により来訪者増につながった。	平成26年5月
	指標3	子どもたちの文化・歴史接触度	回(人)/年	6(264)	H19	14(420)	H25		23(469)	○	あり ● なし	杉村楚人冠記念館の開館、旧村川別荘でのボランティアガイドの取り組み、子ども向けの企画展やイベントの工夫などにより、子どもの学びの場としての活用が増加した。	平成26年5月
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
	その他の数値指標1	ふるさと産品の品数	品	8	H21			モニタリング	17			我孫子市にふさわしい土産品としてPRし、定着してきている。	
	その他の数値指標2	インフォメーションセンターと文化ポイントでのイベント数	回	5	H19				36			地域の魅力を発信する機会が増えた。	平成26年5月
	その他の数値指標3												
4)定性的な効果発現状況	<p>・この計画で整備した杉村楚人冠記念館、旧村川別荘などの文化ポイントの周知が進んだことにより、観光情報誌等から定期的にイベント等の問い合わせが来るようになった。また、インフォメーションセンターでホームページだけでなくフェイスブックやツイッター、メルマガによる情報発信も始めた。情報誌等への掲載数も増加しており、来訪者の増加に寄与していると考えられる。</p> <p>・整備した文化ポイントが、市内小中学校でふるさとカリキュラムという地域学習や総合学習などの授業に活用されるとともに、教員研修などのテーマとして取り上げられるようになった。</p> <p>・特に、杉村楚人冠についてH25年度から最寄りの小学校の授業(小3～6)で取り上げるようになり、杉村楚人冠記念館を訪れた小学生約180人による感想文集が届けられた。「昔の家の造りがよくなりました」、「見ただけで10回以上は行きたくなくなりました。家族にも勧めたいです」、「我孫子に別荘を建てたことがよくなりました」、「地震の時のために本棚が壁にくっついていて驚きました」、「また行くので、いろんな話を聞かせてください」などの感想があり、実際の現場で学ぶことにより、より我孫子の先人についてより身近に感じてもらう効果があると推察できる。</p> <p>また、教職員研修の内容も文化ポイントを巡って我孫子の歴史について理解を深めるものとなっている。アンケートでは、「講義で教わったことを直接見ることができたので、大変よく理解できた」、「直接見に行くことで、歴史上の人物や出来事を身近に感じることができた」、「郷土愛を育てていきたい」などと、教育に活かしてもらえなっけとされていることがうかがえる。</p> <p>さらに、旧村川別荘で任意にとっているアンケートでは、「よく整備されており驚いた」、「我孫子の古い建物から歴史が伝わり素敵です」、「これからも保存していただきたい。頑張ってください」、「昔の別荘の感じが良かった」など新たな来訪者と思われる人の好意的な記述が目立った。</p> <p>・散策路のデザイン舗装については、景観保全の市民団体の会報(H23年5月)で取り上げられ、「景観、歴史文化の要所や分岐点にデザイン舗装が施され、色は明るいグレー、濃いグレー、その中間の3色の落ち着いた配色で、そこに来ると思わず歩みがちゆったりとして、車も気のせいスピードダウンしたように感じる」、「今後、ハケの道の西側部分や他の散策路についても、上記の舗装が実施されるとのことで、期待したい」と評価されている。</p>												

5)実施過程の評価	実施内容	実施状況		今後の対応方針等
5)実施過程の評価	モニタリング		都市再生整備計画に記載し、実施できた	
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	
	住民参加プロセス	市民向けの出前講座による、計画の概要や実施する事業についての説明や質疑応答の実施。	都市再生整備計画に記載し、実施できた	
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	●
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	
持続的なまちづくり体制の構築	市民ボランティアガイドとの協働によるおもてなしのしくみ(ガイドやイベント運営など)の確立	都市再生整備計画に記載し、実施できた	●	
		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した		
		都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		

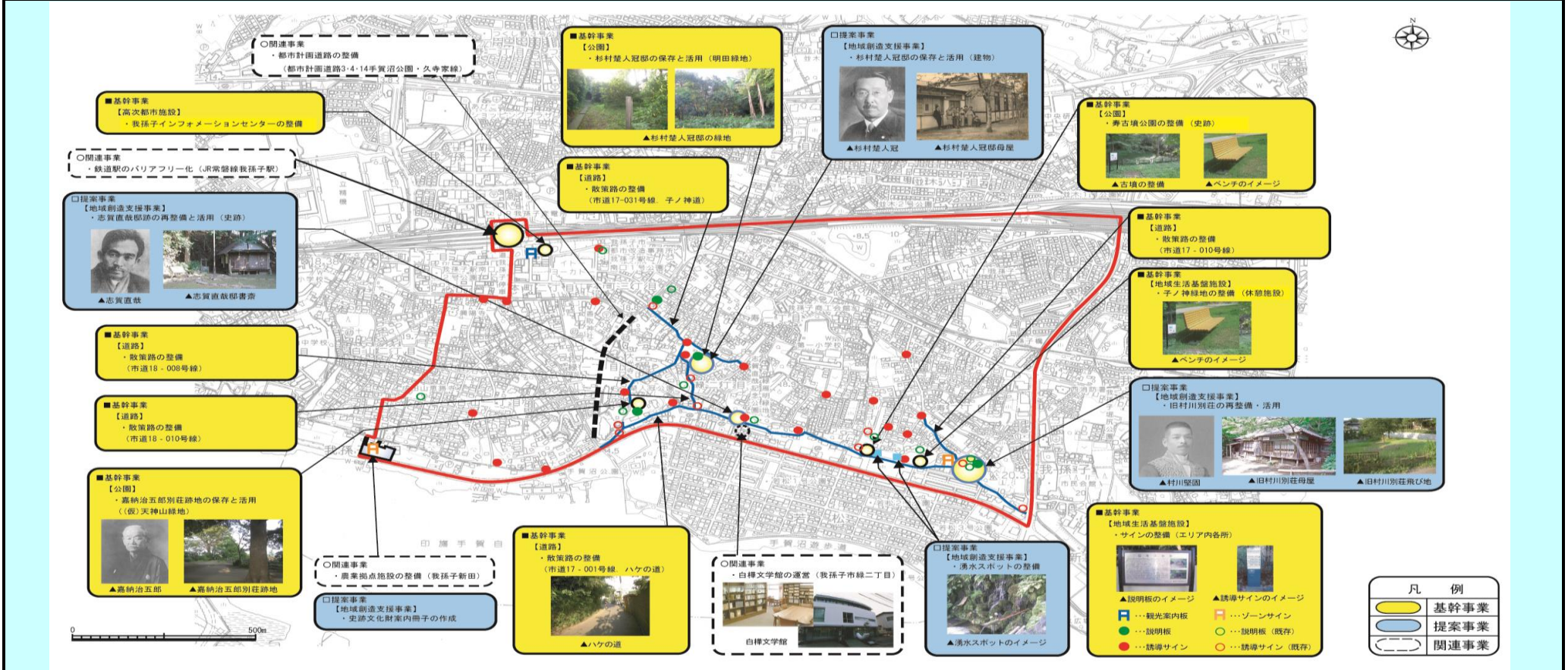
今後も市民の意見をまちづくりへ活かせるよう、市民参加の機会を多く設けていく。

今後も市民ボランティアと協働し、同様の取り組みをほかの文化ポイントやエリアに拡大していく。

様式2-2 地区の概要

我孫子駅南東地区(千葉県我孫子市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標: 地域資源の魅力向上と交流の促進 目標1: 文化・歴史・自然を活かしたまちの魅力向上 目標2: 魅力発信と交流促進によるまちの活性化 目標3: 未来を担う次世代への継承	インフォメーションセンター利用者数	単位: 人/年	8,451	H20	11,000	H25	31,732	H24.9.1~ H25.8.31
	文化ポイントへの来訪者数	単位: 人/年	11,400	H19	16,500	H25	14,513	H24.9.1~ H25.8.31
	子どもたちの文化・歴史接触度	単位: 回(人)/年	6(264)	H19	14(420)	H25	23(469)	H24.9.1~ H25.8.31



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> 文化ポイントや緑地、それらをつなぐルートの要所を整備することによって、地域資源の魅力向上ができ、来訪者に我孫子の文化や歴史について分かりやすく伝えることができるようになった。 インフォメーションセンターを整備し、案内冊子や散策ルートマップ、ホームページなどにより紙媒体、電子媒体での情報発信を行うしくみができた。 子どもたちが参加できるイベントを開催するとともに小中学校の「ふるさとカリキュラム」と連携し、子どもたちが我孫子の文化を知る手段を作った。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> 施設の整備や情報発信のしくみができたことから、今後は、施設同士の連携を強化するとともにPR方法の検討による情報発信力の向上など活用方策を工夫し、来訪者数や賑わいを持続させていく。 新たに市の施設となった白樺文学館の施設改修を行い、来館者の円滑な動線確保や展示の魅力向上を図る。 杉村楚人冠記念館と旧村川別荘では、多くの来訪者により、経年劣化以上に建物の腐朽が進むことが予想されるため、定期的な調査や計画的な維持補修工事を行うしくみを確立する。

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1ー① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他()		●			

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	市道17-001号線(ハケの道)ほか5路線	63	L=2345m	23	L=2345m	平成24年3月に計画変更。道路の修景舗装範囲を全面舗装からポイント舗装に変更したことに伴い、事業費を減じた。	全面舗装からポイント舗装に変更したが、各文化ポイントへの誘導・所在が明確になり、指標や目標への影響はなかった。	●	
公園	明田緑地(杉村楚人冠邸)	407	約4200㎡	390	約4200㎡	平成23年7月に計画変更。コスト縮減に伴い、事業費を減じた。	影響なし	●	
公園	(仮)天神山緑地(嘉納治五郎別荘跡地)	84	約3000㎡	84	約3000㎡	なし	—		●
公園	寿古墳公園(寿二丁目)	5	約2300㎡	5	約2300㎡	平成22年3月に計画変更。四阿の設置を取りやめるとともに、子ノ神緑地で実施する予定の埴輪の樹立等を実施することとした。 平成23年3月に計画変更。1年の事業期間を平成23年から24年までの2年とした。	影響なし	●	
地域生活基盤施設(緑地)	子ノ神緑地(寿二丁目)	9	約3300㎡	0	約3300㎡	平成22年3月に計画変更。四阿の設置を取りやめるとともに、埴輪の樹立等を寿古墳公園で整備することとした。 平成23年3月に計画変更。1年の事業期間を平成23年から24年までの2年とした。	影響なし	●	
地域生活基盤施設(広場)	旧村川別荘南側	4	約236㎡	0	0㎡	平成23年3月に計画変更。提案事業「旧村川別荘の再整備・活用」に統合、その中で整備することとした。	影響なし	●	
地域生活基盤施設(情報板)	サインの整備(エリア内各所)	8	—	8	—	なし	—	●	
高次都市施設(観光交流センター)	我孫子駅前インフォメーションセンター	45	2階(約140㎡)	37	平屋(98.55㎡)	平成22年3月に計画変更。スペースの有効活用と経費削減のため平屋とした。	影響なし	●	
高次都市施設(自由通路)	我孫子駅自由通路	2,560	L=65.7m	0	L=0	平成22年9月に計画変更。民間事業者と合意に至らず、事業を延期したため、削除した。	当初の計画通りに我孫子駅自由通路を整備していれば、「指標1:インフォメーションセンター利用者数」や「指標2:文化ポイントへの来訪者数」の増加にさらに寄与したと考える。		
都市再生交通拠点整備事業	—								
土地区画整理事業(都市再生)	—								
住宅市街地総合整備事業	—								

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業	—								
バリアフリー環境整備事業	—								
優良建築物等整備事業	—								
住宅市街地総合整備事業	—								
街なみ環境整備事業	—								
住宅地区改良事業等	—								
都心共同住宅供給事業	—								
公営住宅等整備	—								
都市再生住宅等整備	—								
防災街区整備事業	—								

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業

事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業	杉村楚人冠邸の保存と活用(建物)	73.5	約228㎡、29㎡、30㎡	68.1	252㎡、31㎡、38㎡	平成24年3月に計画変更。測量により建物面積を実測面積に修正した。	影響なし	●	
	旧村川別荘の再整備・活用	8.5	約2745㎡	58.6	約2981㎡	平成22年9月に計画変更。建物の破損状況が想定よりも大きかったこと、庭園の再整備範囲を拡大したことにより、事業費を増額するとともに、事業期間を変更し、2年の事業期間を平成21年から23年までの3年とした。 平成23年3月に計画変更。基幹事業「旧村川別荘ポケットパークの整備」をこの事業の中で実施することにした。 平成24年3月に計画変更。雨漏りが判明した屋根の葺き替え工事を行うため、事業費を増額するとともに、3年の事業期間を平成21年から平成24年までの4年とした。	影響なし	●	
	ハケの道湧水スポットの整備	3.0	湧水スポット3箇所	3.6	湧水スポット2箇所	平成23年7月に計画変更。湧水の状況を踏まえ、整備箇所を縮減した。	影響なし	●	
	志賀直哉邸の再整備と活用	9.0	1919㎡	7.4	1919㎡	平成22年9月に計画変更。都市緑地にふさわしい整備のあり方を検討した結果、説明施設の形状を変更し、事業費を縮減した。	影響なし	●	
	史跡文化財案内冊子の作成	4.0	30000部	1.2	30000部	平成23年7月計画変更。ページ数の減少により、事業費を減じた。	影響なし	●	

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考)関連事業

事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考
			当初計画	最終変更計画	当初計画	最終変更計画		
都市計画道路の整備		都市計画道路3・4・14号手賀沼公園・久寺家線	2,100	2,100	平成10年度～21年度	平成10年度～26年度	道路用地取得の遅延に伴い、整備が遅れている。	
鉄道駅のバリアフリー化		JR常磐線我孫子駅	—	—	平成20年度～22年度	平成20年度～24年度	構内エレベーターの設置は、スペースが確保できないため困難なことが明らかになった。	
農業拠点施設の整備		我孫子新田	435	435	平成19年度～24年度	平成19年度～26年度	農事組合法人による農産物直売所アンテナショップの運営検証を実施するとともに、農業拠点施設の立地も含めた整備について検討している。	
白樺文学館の運営		緑二丁目	—	—	平成20年度～	平成20年度～	平成20年度に旧所有者と共同運営を実施し、平成21年度に旧所有者から寄附を受け市の単独運営を開始。常設展のほか企画展やイベントなどソフト展開の充実を図っているが、施設や設備の老朽化などの課題もあり、来館者数は減少傾向である。	

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	単位	(参考)※1 計画以前の値 (ア)	従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無		
				基準年度	基準年度	基準年度	目標年度	モニタリング	事後評価	数値	モニタリング	事後評価	あり	なし	
指標1	インフォメーションセンター利用者数	人/年	平成24年9月1日から平成25年8月31日までの1年間の利用者数		8,451	H19	11,000	H25	モニタリング			モニタリング			●
									事後評価	確定見込み ●	31,732	事後評価	○		
指標2	文化ポイントへの来訪者数	人/年	平成24年9月1日から平成25年8月31日までの1年間主たる文化ポイントとして杉村楚人冠記念館、白樺文学館、志賀直哉邸跡、旧村川別荘への来訪者数の合計	915 (旧村川別荘のみ)	H15	11,400	H19	16,500	H25	モニタリング			モニタリング		●
										事後評価	確定見込み ●	14,513	事後評価	△	
指標3	子どもたちの文化・歴史接触度	回(人)/年	平成25年9月において確定をしている月別来訪者数統計データを用い、主たる文化ポイントとして杉村楚人冠記念館、白樺文学館、旧村川別荘における子ども向けのイベントによる来訪者数、小中学校における総合学習などの時間を活用した地域学習による来訪者数、キャリア教育による来訪者数の合計		6(264)	H19	14(420)	H25	モニタリング			モニタリング		●	
									事後評価	確定見込み ●	23(469)	事後評価	○		
指標4									モニタリング			モニタリング			
									事後評価	確定見込み ●		事後評価			

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	アビシルベまつりなど独自のイベントを実施したほか、常磐線、成田線沿線の駅や自治体への積極的なPRを行ったことが利用者増につながった。	平成25年度に指定管理者制度を導入した際に、インフォメーションセンター利用者数にインフォメーションセンターの前で行うイベントの参加者も含めて計測するようになったため、本来のインフォメーションセンター利用者数のみを把握することができなくなった。
指標2	平成25年9月1日時点での過去1年間分のデータで目標値をやや下回っているが、9月～12月にかけて新規も含むイベントの予定が集中しており、来訪者数の増加が見込まれるため、目標の達成見込みを「あり」としている。	
指標3	平成25年9月1日時点での過去1年間分のデータで目標値を上回っており、平成25年度の1年間分のデータもおよそ同等と推測されることから、目標の達成見込みを「あり」としている。	
指標4		

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方(時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値(ア)		従前値(イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項(指標計測上の問題点、課題等)	
				基準年度		基準年度						
その他の数値指標1	ふるさと産品の品数	品	平成24年8月にふるさと産品連絡協議会が指定した、郷土・我孫子にふさわしい土産品の品数。		8	H21	モニタリング			17	ふるさと産品は、地域の特色を生かした商品であり、その品数により地域の魅力発信力や事業者の意欲向上を測ることができる。	平成25年5月からインフォメーションセンターでふるさと産品の販売を始めた。
							事後評価	確定 ●	見込み			
その他の数値指標2	インフォメーションセンターと文化ポイントでのイベント数	回	平成25年度にインフォメーションセンターと文化ポイント(杉村楚人冠記念館、白樺文学館、旧村川別荘)で実施したイベントの回数		5	H19	モニタリング			36	施設整備により地域の魅力を発信する機会が増えたことにより、間接的に交流人口の増加にもつながることを説明する。	平成19年度にはインフォメーションセンターと杉村楚人冠記念館はなかったこと、白樺文学館は民営であったことから、従前値は旧村川別荘での年間イベント数をカウントした。
							事後評価	確定 ●	見込み			
その他の数値指標3							モニタリング					
							事後評価	確定 ●	見込み			

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

この計画で整備した杉村楚人冠記念館、旧村川別荘などの文化ポイントの周知が進んだことにより、観光情報誌等から定期的にイベント等の問い合わせが来るようになった。また、インフォメーションセンターでホームページだけでなくフェイスブックやツイッター、メルマガによる情報発信も始めた。情報誌等への掲載数も増加しており、来訪者の増加に寄与していると考えられる。

整備した文化ポイントが、市内小中学校でふるさとカリキュラムという地域学習や総合学習などの授業に活用されるとともに、教員研修などのテーマとして取り上げられるようになった。

特に、杉村楚人冠についてH25年度から最寄りの小学校の授業(小3~6)で取り上げるようになり、杉村楚人冠記念館を訪れた小学生約180人による感想文集が届けられた。「昔の家の造りがよくわかりました」、「見ただけで10回以上は行きたくなりました。家族にも勧めたいです」、「我孫子に別荘を建てたことがよくわかりました」、「地震の時のために本棚が壁にくっついていて驚きました」、「また行くので、いろんな話を聞かせてください」などの感想があり、実際の現場で学ぶことにより、より我孫子の先人についてより身近に感じてもらう効果があると推察できる。

また、教職員研修の内容も文化ポイントを巡って我孫子の歴史について理解を深めるものとなっている。アンケートでは、「講義で教わったことを直接見ることができたので、大変よく理解できた」、「直接見に行くことで、歴史上の人物や出来事を身近に感じる事ができた」、「郷土愛を育てていきたい」などと、教育に活かしてもらえるきっかけとなっていることがうかがえる。

さらに、旧村川別荘で任意にとっているアンケートでは、「よく整備されており驚いた」、「我孫子の古い建物から歴史が伝わり素敵です」、「これからも保存していただきたい。頑張ってください」、「昔の別荘の感じが良かった」など新たな来訪者と思われる人の好意的な記述が目立った。

散策路のデザイン舗装については、景観保全の市民団体の会報(H23年5月)で取り上げられ、「景観、歴史文化の要所や分岐点にデザイン舗装が施され、色は明るいグレー、濃いグレー、その中間の3色の落ち着いた配色で、そこに来ると思わず歩みがちとして、車も気のせいスピードダウンしたように感じる」、「今後、ハケの道の西側部分や他の散策路についても、上記の舗装が実施されるとのことで、期待したい」と評価されている。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
市民向けの出前講座を通じて、計画の概要や実施する事業についての説明や質疑応答を行った。	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	【実施頻度】年6回程度 【実施時期】要望により随時実施 【実施結果】活発な質疑があり、計画に対する市民の理解が深まるとともに、今後のソフト展開を進めるにあたって参考となる意見や提案があった。	今後も市民の意見をまちづくりに活かせるよう、市民参加の機会を多く設けていきたい。
	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名・組織の概要	
市民ボランティアガイドとの協働により、事業で整備した施設を運営した。	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	● 市民によるボランティアガイドを旧村川別荘で実施し、来訪者へのおもてなしのしきみを確立した。また、イベント時に複数のガイド団体と連携し、来訪者の需要に応じたコースのガイドも実施した。 インフォメーションセンターでは、ボランティアガイドが常駐して、ガイドを実施したが、指定管理者制度の導入に伴い、平成24年度末に終了した。	・旧村川別荘市民ガイド ・我孫子インフォメーションセンター(アビシルベ)でのボランティアガイド	今後は、旧村川別荘市民ガイドのさらなる充実と、他の文化ポイントで同様の取り組みを展開していく。なお、インフォメーションセンターでは、平成24年度末に、当施設における常駐ボランティアガイドは終了したが、今後、指定管理者の自主事業として、インフォメーションセンターを拠点としたまち歩きツアーなどでボランティアガイドと協働していく。

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内の横断的な組織(我孫子駅南東地区関係課会議)	関係各課担当職員(企画課、商業観光課、道路課、公園緑地課、文化・スポーツ課)	第1回 平成25年9月6日 第2回 平成25年9月12日	企画財政部企画課

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1		指標2		指標3			
指標名		インフォメーションセンター利用者数		文化ポイントへの来訪者数		子どもたちの文化・歴史接触度			
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	散策路の整備・市道17-001号線(ハケの道)ほか5路線	○	文化ポイントや散策路、サインなどを整備したことで文化ポイントの魅力が向上したのに加え、インフォメーションセンターで観光スポットをはじめとした様々な観光情報の発信が利用者の増加につながった。また、アビシルベまつりなどのイベント会場や音楽演奏ステージとしての活用によりインフォメーションセンターの認知度が高まった。	○	主たる文化ポイントである杉村楚人冠邸、旧村川別荘、志賀直哉邸跡を整備し、白樺文学館と合わせて活用することにより、魅力向上の効果を生み出した。特に杉村楚人冠記念館とその庭の部分にあたる明田緑地を公開したことにより、来訪者の増加につながった。平成25年9月時点では、目標値にはやや届かないものの来訪者は増加はしており、一定の効果が得られた。	—	主たる文化ポイントである杉村楚人冠邸、旧村川別荘、志賀直哉邸跡を整備し、白樺文学館と合わせて活用することにより、魅力向上の効果を生み出した。こうした文化ポイントが総合学習や地域学習、キャリア教育などの場として活用され、来訪者数の増加につながった。また、子ども向けの企画展やイベントなどのソフト展開を実施することにより、一般の子どもも来訪者も増加した。	○	
	公園・明田緑地(杉村楚人冠邸)	○		◎		◎			
	公園・(仮)天神山緑地(嘉納治五郎別荘跡地)	○		○		○			
	公園・寿古墳公園(寿二丁目)	○		○		○			
	地域生活基盤施設(緑地)・子ノ神緑地(寿二丁目)	○		○		○			
提案事業	地域生活基盤施設(情報板)・サインの整備(エリア内各所)	○		○		○		○	
	高次都市施設(観光交流センター)・我孫子インフォメーションセンター	◎		○		—			
	地域創造支援事業・杉村楚人冠邸	○		◎		◎			
	地域創造支援事業・旧村川別荘	○		◎		◎			
	地域創造支援事業・湧水スポットの整備(市道17-001号線)	○		○		○			
関連事業	地域創造支援事業・志賀直哉邸跡(緑二丁目)	○		◎		◎		◎	
	地域創造支援事業・史跡文化財案内冊子の作成	○		○		○			
	都市計画道路の整備	—		—		—			
	鉄道駅のバリアフリー化	—		—		—			
	農業拠点施設の整備	—		—		—			
	白樺文学館の運営	○		◎		◎		◎	

※指標改善への貢献度

- ◎: 事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- : 事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △: 事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	今後も市民との協働などを進め、イベント実施や運営を推進していく。	今後も企画展やイベントなどの活用事業を推進し、来訪者が増えるよう施設を運営していく。	今後も子ども向けのソフト展開や、小中学校との連携を深め、より地域に密着した学びの場の提供を図っていく。また、市外小中学校への周知にも努め、活用してもらえるよう取り組んでいく。
-------	----------------------------------	--	---

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1			指標2			指標3			指標〇		
指標名													
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業													
提案事業													
関連事業													

※目標未達成への影響度
 ××: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
 ×: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
 △: 数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
 -: 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類
 分類Ⅰ: 内的な要因で、予見が可能な要因。
 分類Ⅱ: 外的な要因で、予見が可能な要因。
 分類Ⅲ: 外的な要因で、予見が不可能な要因。
 分類Ⅳ: 内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)				

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内の横断的な組織(我孫子駅南東地区関係課会議)	関係各課担当職員(企画課、商業観光課、道路課、公園緑地課、文化・スポーツ課)	第1回 平成25年9月6日 第2回 平成25年9月12日	企画財政部企画課

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
①史跡・遺跡などの地域資源 そのものの魅力を向上させる 施設整備	明田緑地や(仮)天神山緑地について、市街地の緑地という地域資源を保存することができた。 旧村川別荘、杉村楚人冠記念館、寿古墳公園など、エリア内にある史跡・遺跡の再整備が完了し、来訪者に我孫子の文化や歴史について分かりやすく伝えることができるようになった。	旧所有者である個人から寄贈された白樺文学館については、来訪者数が減少傾向にあることから、その魅力向上に向けてソフト充実を図るとともに、来館者の円滑な動線確保や設備の充実を図るなど、施設の再整備が必要である。	・史跡として保存することが前提である建造物に多くの来訪者があるため、経年劣化以上に建物の腐朽が進むことが予想される。
②点在する地域資源を結ぶ道路 や案内施設の整備	文化ポイントの前面道路と、そこに至るルート上の要所にデザイン舗装を施すことにより、点在する文化ポイントのネットワーク化に寄与するとともに、周辺の魅力が向上した。 エリア内に中拠点サイン、誘導板、説明板を設置することにより、来訪者が散策しやすくなるとともに、観光情報を得やすくなった。		
③来訪者に地域資源の魅力 について情報提供するしくみ	インフォメーションセンターを整備し、観光ポイントやイベントなどの情報発信を開始した。 情報発信にあたっては、史跡・遺跡を記した案内冊子や散策ルートを掲載したマップを作成、紙媒体での情報提供を行った。 また、インフォメーションセンターからホームページやSNSを通じて最新の情報を提供するなど情報発信の拡充を図った。 さらに、インフォメーションセンター前でイベント等を実施するなど情報発信拠点としてのPRを図った。		
④来訪者のニーズを探り、 新たな魅力を創出するしくみ	整備したインフォメーションセンター、旧村川別荘、杉村楚人冠記念館などでのアンケートや問い合わせを通じて、来訪者のニーズを把握し、企画展示やイベントに活かすことができた。		
⑤我孫子の文化を次代につな げる手段を創出するしくみ	整備した文化ポイントなどで子どもたちが参加できるイベントを開催した。小中学校の「ふるさとカリキュラム」と連携し、我孫子に関わる先人たちの暮らしを偲ぶことができる場として活用した。		

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
<p>A欄 効果を持続させるため に行う方策</p>	<p>来訪者数や賑わいの持続</p>	<p>施設同士や市内の学校と連携してイベントを実施するなど魅力向上を図る。市外の学校等にも活用してもらえよう、電子媒体を活用するなどPR方法について様々な検討を行い、情報発信力を一層高めていく。</p>	<p>インフォメーションセンターを活用したイベントの開催。様々な媒体を使った情報の発信。3館(白樺文学館、杉村楚人冠記念館、鳥の博物館)合同の企画展の実施やチケットの販売。我孫子の文化に関する読本などを電子媒体でダウンロードできるようにする。</p>

	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
<p>B欄 改善策</p> <p>・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策</p>	<p>白樺文学館の施設や設備の再整備</p>	<p>来館者の円滑な見学や安全を確保するための施設、収蔵物の適正な保存を図るための設備を整備する。</p>	<p>来館者の動線確保と、展示ケースの気密化や恒温定室収蔵庫の設置など</p>
	<p>杉村楚人冠記念館と旧村川別荘の計画的な修繕</p>	<p>杉村楚人冠記念館と旧村川別荘の腐朽や破損を早期に発見し、早期に修繕を行うことで、長寿命化を図る。</p>	<p>杉村楚人冠記念館と旧村川別荘の定期的調査及び維持補修工事</p>

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

✓	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
✓	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
✓	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
✓	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
✓	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	<ul style="list-style-type: none"> 核となる施設を整備することによって、多くの来訪者に文化と歴史の魅力にあふれた我孫子市を知ってもらい、次世代に継承できるまちづくりの一翼を担えた。 各文化ポイント等の整備により来訪者が増え、結果としてインフォメーションセンター利用者増加にもつながった。 インフォメーションセンターをイベントステージとしても活用したことにより、施設のPRができ、認知度が高まった。 	整備にあたっては、短期間に一定区域を集中して整備する方が、効果が上がることが確認できた。
	うまくいかなかった点	<ul style="list-style-type: none"> 既存施設の中には来訪者数が減少した施設があった。 	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	<ul style="list-style-type: none"> 施設整備などの事業を直接的に測れる良い指標であり、評価しやすかった。 	
	うまくいかなかった点	<ul style="list-style-type: none"> 特になし 	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	<ul style="list-style-type: none"> 特になし 	ホームページや整備した施設などで、計画概要だけでなく事業の進捗状況を示すと市民の関心がより高まり有効である。
	うまくいかなかった点	<ul style="list-style-type: none"> 都市再生整備計画の根拠となる手賀沼文化拠点整備計画の策定にあたっては、住民参加の手法により意見を反映させたが、事業の進捗状況についての情報提供については工夫の余地があった。 	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	<ul style="list-style-type: none"> 変更が生じた事業もあったが、年に数回関係課長会議を開催し、事業の進捗状況を確認しながら進めたため、数値目標を達成できる見込みとなった。 	目標の達成状況についてのモニタリングを計画的に行う必要がある。
	うまくいかなかった点	<ul style="list-style-type: none"> 特になし 	
その他	うまくいった点	<ul style="list-style-type: none"> 特になし 	
	うまくいかなかった点	<ul style="list-style-type: none"> 特になし 	

添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

我孫子駅南東地区のまちのにぎわいづくりをさらに進めていくためには、今後も手賀沼文化拠点整備計画に位置付けられた事業を計画的に実施していく必要がある。今回の事後評価結果を踏まえたうえで、改めて社会資本整備総合交付金を活用した新たな都市再生整備計画を策定していく。

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページに掲載	平成25年11月1日～12月2日	平成25年11月1日～12月2日	担当課へのFAX、郵送、電子メール、持参	企画財政部企画課
広報掲載・回覧・個別配布	広報に市のホームページと公共施設24か所で原案を公表している旨を掲載	平成25年11月1日発行 広報あびこ11月1日号	平成25年11月1日～12月2日		
説明会・ワークショップ					
その他	市内公共施設24か所(近隣センター、行政サービスセンター、図書館、公民館など)で公表	平成25年11月1日～12月2日	平成25年11月1日～12月2日		
住民の意見	なし				

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	梅村 恵子 川村学園女子大学文学部 教授(歴史・文化財) 藤井 敬宏 日本大学理工学部 教授(都市計画)	第1回 平成25年10月29日 第2回 平成25年12月12日	企画財政部企画課	我孫子市我孫子駅南東地区都市再生整備計画事業事後評価委員会設置要綱	独自に設置
その他の委員	あびこガイドクラブ 会員 我孫子の景観を育てる会 顧問 布佐小学校 教頭				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	・方法書にしたがって、事後評価が適正に実施されたことが確認された。
	成果の評価	・整備をきっかけに動き出した新たな取り組みについての指標など、その他の数値指標に追加できるものを検討し、アンケートによる来訪者の声など定性的な効果発現状況も含めできるだけ記述するようこの意見があった。⇒各欄に記述を追加した。
	実施過程の評価	・特になし
	効果発現要因の整理	・東日本大震災の影響については記載しないのかという質問があった。 ⇒少なからずあったと考えられるが、それを確定させる根拠が明示できないため、記載はしていないと答弁した。
	事後評価原案の公表の妥当性	・市民への事後評価原案の公表は、パブリックコメントの設置個所数や意見提出手段も含めて妥当性があると認められた。
	その他	・特になし
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価の手続きは妥当であると認められた。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・電子媒体で既存の読本を活用するなど情報発信し、我孫子ゆかりの文化人が日本の近代文化に貢献したことなどを強くアピールしていくべきとの意見があった。 ・施設同士や学校と連携するなど、市内外への広報活動の展開をしていくべきとの意見があった。
	フォローアップ	・特になし
	その他	・お土産はその地域をイメージさせ、PR効果の高いものである。商品開発には民間任せではなく、行政も入って考えて欲しいという意見があった。
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・今後のまちづくり方策は妥当であると確認された。
その他	・インフォメーションセンターは、場所は良いが、入口がわかりにくく入りづらいという意見があった。	

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

(7) 有識者からの意見聴取

添付様式9 有識者からの意見聴取

・この様式は、効果発現要因の整理(添付様式5)、今後のまちづくり方策の検討(添付様式6)、評価委員会の審議(添付様式9)以外の機会に、市町村が任意に有識者の意見聴取を行った場合に記入して下さい。

意見聴取した有識者名・所属等	実施時期	担当部署

有識者の意見	
--------	--

社会資本総合整備計画

我孫子駅南東地区都市再生整備計画

平成24年3月

千葉県 我孫子市

都市再生整備計画(第5回変更)

あ び こ えき なん とう
我孫子駅南東地区

ち ば け ん あ び こ し
千葉県 我孫子市

平成24年3月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	千葉県	市町村名	我孫子市	地区名	我孫子駅南東地区	面積	141 ha
計画期間	平成 21 年度 ~ 平成 25 年度	交付期間	平成 21 年度 ~ 平成 25 年度				

目標

来訪者の流入を促し交流できる環境を整えるとともに、手賀沼という豊かな水辺に集った先人たちの足跡を掘り起こし、知らせ、“昔”の知恵を“今”に活かすまちづくりを行う。また、これにより市民、来訪者、消費者、生産者、子ども、若者、大人など立場を超え世代を超えた交流を促進し、まちの活性化を図るとともに心豊かなくらしを実現する。

大目標：地域資源の魅力向上と交流の促進
 目標1：文化・歴史・自然を活かしたまちの魅力向上
 目標2：魅力発信と交流促進によるまちの活性化
 目標3：未来を担う次世代への継承

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

【これまでの経緯】

・我孫子市内には、古墳や郡衙などの遺跡、戦国時代の城跡、江戸時代の宿場、大正時代の別荘、文人たちの旧居など、多時代に亘る数多くの史跡が、沼と樹林地、丘陵と一体となって所在している。特に我孫子の象徴でもある手賀沼沿い(当地区)には、水辺の豊かさを求めて移り住んだ先人たちの足跡が時代を超えて残されている。これまで我孫子市では、必要に応じて志賀直哉邸跡や旧村川別荘、嘉納治五郎別荘跡などの重要な史跡を個々に買収、保存してきた。

・これら史跡の周辺には、手賀沼をとりまく低湿地から台地への地形、農が永々と営まれている広大な水田、昔ながらの景観を髣髴とさせる斜面林など貴重な自然が残されている。こうした市街地の緑地についても、必要に応じて個々に買収、保存してきた。

・まちの中心市街地でもある我孫子駅南(南側)は、大型商業施設と個人商店の集積があるが、モータリゼーションの進展や商業施設の郊外化の流れ、隣接市に大規模な商業エリアがあることなどから下降傾向である。また、我孫子駅周辺には、近年次々と大型マンションが建設され、この新たな大規模コミュニティの発生が、住民意識の乖離やコミュニティの分断、地域意識の薄さなどの誘因となっている。

【計画等における位置づけ】

・「我孫子市第三次総合計画」において、このエリアは、我孫子市の玄関口、顔としての位置づけがなされている。

・総合計画にぶらさがる部門別計画として「手賀沼文化拠点整備計画」を、市民委員等を含めた半年間33回の会議を経て、平成19年7月に策定、それを受けた実行計画を平成20年2月に策定した。当該計画は、計画期間が平成21年度から平成30年度までの10年間で推進することとしており、そのうち前期5年のエリアがこの都市再生整備計画エリアとオーバーラップしている。また、我孫子市第三次総合計画第二次基本計画においては、この手賀沼文化拠点整備計画の推進が位置づけられている。

・平成12年9月策定の「手賀沼農舞台計画」により、地産地消の推進や、観光農園など農を通して人々の交流を生む事業の展開、我孫子ならではの農を推進するエリアとしての位置づけもなされている。

・国土交通省等が実施した「富士見百景」、及び「美しい日本の歴史的風土100選」の準100選に、エリア南側が選ばれている。

【現状での取り組みなど】

・千葉県で平成19年度に推進したディスティネーションキャンペーンにおいては、文化や歴史のポイントを活かした取り組みや、水辺でのイベント、市民との共同による積極的な運営・展開が進められた。

・近年、市民による観光ボランティアガイドの増加や、市民活動による文化財の維持などへの支援、商店会での祭りなどにぎわいづくりの取り組み、景観作物の栽培によるイベント、地元農産物の直売など、文化・歴史・自然の要素を活かして、まちを活性化しようという機運が盛り上がりつつある。

課題

我孫子市は東西約15キロの細長い地形で、地域ごとに独自の文化・歴史を営んできた。昭和30年代後半以降、東京のベッドタウンとして開発が進み、マンション群や新たなコミュニティが生まれている。それに伴い、新旧住民の年齢構成の差異、意識差などの問題も生じている。そのような状況のもと、各地域に所在する歴史的な建造物、遺跡、それを支えてきた人々の足跡、現在まで営まれている活動などの「地域資源」を利用することは、居住地域や年代を超えた市民の交流と相互理解を促進すると考える。そのためには、次の課題を解決する必要がある。

- ① 史跡・遺跡などの地域資源そのものの魅力を向上させる施設整備
- ② 点在する地域資源を結ぶ道路や案内施設の整備
- ③ 来訪者に地域資源の魅力について情報提供するしくみ
- ④ 来訪者のニーズを探り、新たな魅力を創出するしくみ
- ⑤ 我孫子の文化を次代につなげる手段を創出するしくみ

→これらの課題解決により、地域資源の有効活用、市民の交流促進と来訪者増、商業・農業の活性化につながって、ひいては市の財政基盤強化と市民生活の向上を実現するものとする。

将来ビジョン(中長期)

・我孫子市第三次総合計画(平成12年9月策定)の基本構想では、20年後のまちの姿を、「自然環境を文化に高めるまちへ」、「お互いを思いやる心で元気なまちへ」、「出会いと交流で活力を生むまちへ」と定め、さらに我孫子の将来都市像を『手賀沼のほとり 心輝くまち ～人・鳥・文化のハーモニー』として全市共通の目標に掲げている。そして、この都市再生整備計画エリアを含む我孫子及び天王台地区においては、それぞれ「ゆとりと若さが出会い、自然と歴史が人を結ぶまち」、「こころが温かく芽吹き、くらしの中に躍動があるまち」としている。

・都市計画マスタープラン(平成14年3月策定)では、市街地ゾーンの形成において、自然、歴史、地形などの特性を活かした日常生活を支える機能の集積を図り、魅力ある拠点づくりを進めるものとしている。特に、我孫子駅周辺から手賀沼公園周辺を市のシンボルとなる中心拠点として位置づけ、連続的に魅力的な空間づくりを進めると位置づけている。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
1.インフォメーションセンター利用者数	人/年	我孫子インフォメーションセンターの利用者数を年間でカウントしたもの。	情報発信の効果をはかるものとして、インフォメーションセンターでの実績をもって評価する(従前値は我孫子行政サービスセンターにおける取扱業務以外の観光など「その他の問い合わせ」件数)。	8,451	平成19年度	11,000	平成25年度
2.文化ポイントへの来訪者数	人/年	杉村楚人冠邸、旧村川別荘、志賀直哉邸、白樺文学館への年間の来訪者数を合算したもの。	歴史的・文化的資源の活用によるまちの活性化、交流の促進の効果をはかるものとして、各文化ポイントでの来訪者数の増加により評価する。	11,400	平成19年度	16,500	平成25年度
3.子どもたちの文化・歴史接触度	回・人/年	子供向けのイベントや、近隣の小学校、中学校における総合学習などの時間を活用した、史跡や文化財への来訪による地域学習の授業などの回数。	未来を担う次世代への継承の可能性をはかるものとして、子どもたちが地域の歴史や文化財に触れる機会の回数及び人数で評価する。	6回(264人)	平成19年度	14回(420人)	平成25年度

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1:手賀沼のほりにある文化・歴史・自然環境にかかわるポイントをネットワーク化し、市民を含む多くの来訪者が我孫子の豊かさを実感できる空間を創り、我孫子の魅力向上を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> 各文化ポイントをネットワーク化する“道”や“サイン”の整備を行う。 来訪者が散策・回遊しやすいように、散策マップやさまざまなルートの設定・提案、ガイドなどの整備を行う。 多くの人を呼び込むことのできる魅力的な文化ポイントの整備・活用を進める。 	<p>散策路の整備(基幹事業:道路)、杉村楚人冠邸の保存と活用(基幹事業:公園、提案事業:地域創造支援事業)、嘉納治五郎別荘跡地の保存と活用(基幹事業:公園)、寿古墳公園の整備(基幹事業:公園)、旧村川別荘の再整備・活用(提案事業:地域創造支援事業)、子ノ神緑地の整備(基幹事業:地域生活基盤施設)、サインの整備(基幹事業:地域生活基盤施設)、湧水スポットの整備(提案事業:地域創造支援事業)、志賀直哉邸跡の再整備と活用(提案事業:地域創造支援事業)、史跡文化財案内冊子の作成(提案事業:地域創造支援事業)</p>
<p>整備方針2:我孫子ならではの文化・歴史・自然環境を活かして訪れた人の知的好奇心を満たし健康と癒しの空間を創り、広く情報発信を行うことによる交流の促進と地域の活性化を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> 多くの人を呼び込むことのできる魅力的なポイントづくりを行い、交流を促進する。 来訪者に対するおもてなしの充実や交通の利便性の向上を図る。 各文化ポイントの魅力を市内外に向かって情報発信する。 我孫子駅を中心とした情報発信や交流促進の環境を整える。 	<p>杉村楚人冠邸の保存と活用(基幹事業:公園、提案事業:地域創造支援事業)、嘉納治五郎別荘跡地の保存と活用(基幹事業:公園)、旧村川別荘の再整備・活用(提案事業:地域創造支援事業)、サインの整備(基幹事業:地域生活基盤施設)、我孫子インフォメーションセンターの整備(基幹事業:高次都市施設)、湧水スポットの整備(提案事業:地域創造支援事業)、史跡文化財案内冊子の作成(提案事業:地域創造支援事業)、都市計画道路の整備(関連事業)、</p>
<p>整備方針3:魅力向上と交流の促進を通して、次代を担う世代が我孫子のよさを継承できるよう、文化・歴史・自然環境を未来へ伝え遺していく</p> <ul style="list-style-type: none"> 我孫子の歴史やこれまで育まれてきた文化を子どもを含めた多世代に亘る市民などに知らせる場の整備を行い、学び楽しめるようにする。 子どもを含めた多世代に亘る市民などに向けた情報発信を進め、視覚的に体験的に学べる環境を整える。 	<p>杉村楚人冠邸の保存と活用(基幹事業:公園、提案事業:地域創造支援事業)、嘉納治五郎別荘跡地の保存と活用(基幹事業:公園)、我孫子インフォメーションセンターの整備(基幹事業:高次都市施設)、旧村川別荘の再整備・活用(提案事業:地域創造支援事業)、史跡文化財案内冊子の作成(提案事業:地域創造支援事業)、白樺文学館の運営(関連事業)</p>

その他

○市民活力を活かして

- 平成18年度から旧村川別荘においては、市民のボランティアによるガイドが開始されている。この市民ガイドでの実績、経験、課題などを踏まえて、さらに他の文化ポイントへ、さらにコースをガイドするというように活動を広げていく取り組みを行う。
- 計画策定においては、公募の委員3名、市民団体等の代表として12名の計15名の市民に計画策定から参画してもらった。さらに、今後、計画実施の段階においても大いに市民との協働を進め、より地元密着の事業展開をすすめる。

○各文化ポイントにおけるソフト展開について

- 商工会等との連携において、来訪者に対するおもてなしのしくみづくりをすすめる(トイレの無料貸し出し、商店のミニ案内基地機能、各種イベントの実施など)。
- 運輸事業者等との連携において、来訪者に対するおもてなしのしくみづくりをすすめる(バス・タクシー・鉄道における情報発信、観光タクシーの実施、運転手への地域を知ってもらう取り組みなど)。
- 鉄道事業者との連携において、歴史的・文化的地元資源の活用をすすめる(駅付近における情報発信、駅の発車合図のメロディーの工夫など)。
- 価値の高い歴史的資源において、指定文化財制度を活用し、その保存と活用のしくみづくりをすすめる。
- 図書館・公民館との連携において、情報発信の工夫を行う(図書館の地元コーナーの充実、イベント実施、公民館でのマップや資料の配布、案内など)。
- 手賀沼の舟運事業との連携において、イベント用のシャトル水上バスの運行や、遊覧船としてのガイドつき船などの運航を行う。
- インフォメーションセンターにおいて、市民ガイドや子どもガイドの養成を進め、活動を展開する。
- 学校との連携において、子どもたちの職業体験の場としての文化ポイントの活用や、地域学習の材料としての活用をすすめる。

○計画の進行管理、評価について

- 進行管理においては、行政評価と連動させた年度ごとの進捗状況管理、及び効果の評価を行う。
- 手賀沼文化拠点整備計画としての評価を、複数年ごとに推移を踏まえて行う。
- 評価の状況について、広報やホームページにて公表し広く知らせていく。

